

7月18日（金）

## メルボルン市長表敬訪問

メルボルン空港からバスで移動し、12時ごろメルボルン市役所に到着すると、正面玄関においてジョン・ソーメルボルン市長をはじめ、シンガー副市長、メルボルン市議会議員の方々、メルボルン市職員の方々、そして大阪から参加している市民交流団の皆さんがあたたかい拍手で私たち代表団を迎えてくれた。



平松市長、多賀谷市会議長は市長執務室において賓客簿へ記帳した後、ソーマンとともに議場に入場し、大阪・メルボルン姉妹都市提携30周年記念式典が厳かに始まった。

ソーマン、平松市長、多賀谷市会議長の挨拶の後、30周年記念宣言の調印式が執り行われ、長谷川在メルボルン日本国総領事をはじめ、メルボルン市議会議員の皆さんや大阪市民交流団の皆さんなどの出席者とともに宣言の内容を確認した。

### 【ソーマン挨拶要旨】

30年前、この場で国際関係への第一歩を踏み出し、本市としては初めて姉妹都市提携を大阪市と結んだ。メルボルン・大阪の姉妹都市提携は日豪関係のように成熟したものになっており、経済、文化、教育など幅広い重要な場面で活発に行われている。

姉妹都市提携30周年を迎えるにあたって、その提携を様々な場面において促進する決意を込めて記念宣言に署名する。

### 【平松市長挨拶要旨】

大阪とメルボルンは、アジア・太平洋地域における港湾都市として、経済、文化、観光など様々な分野において重要な位置を占めており、両都市の友好交流の重要性は今後もさらに増していく。

30周年は大きな節目であるが、この歴史の重みを十分理解したうえで、これまで培

ってきた友好関係を将来の世代に引き継ぎ、両市の友好関係をさらに発展させることにより、日本とオーストラリアの友好交流、ひいては世界の平和に貢献してまいりたい。私たちの子どもや孫の世代になっても、大阪とメルボルンが姉妹都市としてさらに深い親善の絆で結ばれ、50周年、100周年と祝っていけることを心から願っている。

### 【多賀谷市会議長挨拶要旨】

大阪・メルボルン姉妹都市提携30周年という節目を迎えるにあたり、私たちはこれまでの交流の成果と意義を改めてここに確認するとともに、新たな時代に向けて両市の絆が今まで以上に緊密なものとなることを祈願する。

これから4日間は代表団員一同、メルボルン滞在を大いに楽しんでまいりたい。

### 大阪・メルボルン姉妹都市提携30周年記念宣言

大阪市とメルボルン市は1978年の姉妹都市提携以来、様々な分野で活発な交流を展開し、強い絆で結ばれてきた。両市はともに協力関係の今後の発展が市民の利益に資するものとなるよう、最適な環境を引き続き整えていく。

両市は、既存の提携関係を通じて相互に発展するため、協力を一層推進するとともに関係の基盤をさらに強化し、そこから生まれる恩恵を共に享受できるよう、以下のとおり取り組んでいくことを、ここに改めて確認する。

1. 双方向の直接投資・合弁事業・企業提携などの戦略的パートナーシップの構築に向け、大阪とメルボルンにおけるビジネス分野での基盤を拡大する。バイオテクノロジーや先端の製造技術、デザインなど共通した優先分野に焦点をあて、ビジネスパートナー都市等既存のネットワークを通じた企業間の交流を拡大する。
2. 活力あふれる近代的都市であり、多様な側面をもつ両市が、直面する様々な課題に対応していくために、環境及び都市経営戦略に関する交流を推進する。特に、気候変動、高齢化、社会のグローバル化など将来的な課題に注目して相互協力をを行う。
3. 様々な組織、団体を通じ、両市間の文化・教育面における交流を一層促進するための環境づくりを行う。
4. 姉妹都市交流における地域社会参加の機会を拡大し、市民レベルの交流を充実させる。

大阪・メルボルン姉妹都市提携30周年にあたり、両市は、この関係をさらに発展させていくための共通理念の追求に合意する。また、姉妹都市交流への市民の支援と参加の幅を広げ、大阪市とメルボルン市の相互理解と尊重の促進に今後とも取り組んでいく。

引き続き、記念品の交換をそれぞれ行った後、議会会議室へ移動し記念撮影を行い、記念式典は無事終了した。



記念品の交換（於：議場）

その後、場所をウエスティンホテルに移し、メルボルン市主催の歓迎昼食会が開かれた。

ソーメンの乾杯発声、平松市長による答礼乾杯と続き、和やかな雰囲気の中で昼食会が行われた。メルボルン滞在1日目とは思えないほど昔からの友人との再会を喜ぶかのように会話が弾んだ。

### 姉妹都市提携30周年記念植樹式

昼食会の間じゅう降っていた雨もすっかり上がり、青空のもとキングス・ドメイン公園内で記念植樹式が行われた。

ソーメンをはじめルイー首席補佐官、そして大阪市立島屋小学校の姉妹校であるヒースモント・イースト小学校の児童の皆さん、バンクシア・ラトローブ高校の姉妹校である大阪市立高等学校の生徒さん、大阪市民交流団の皆さんなどたくさんの方々が参加された。



記念植樹の木は、オーストラリアでは長寿のシンボルとされる「長寿松」であり、大阪とメルボルンの友好関係がいつまでも続くことを示しているとのことであった。ソーメン、平松市長、多賀谷市会議長の3人で、大阪とメルボルンの友好関係がこの長寿松のように未来永劫に続くことを祈念し、記念植樹を行った。

ヒースモント・イースト小学校の児童も植樹した後、子どもたちから代表団全員に、イチョウの葉っぱの絵がプレ

ゼントされた。イチョウは、今年6月にソーメンが大阪を訪問された際、大阪歴史博物館の前で植樹した木であり、長寿松と同様、長寿のシンボルである。プレゼントされた絵をつなぎあわせ、この絵がつながっていくように両市の関係が末永く続くことを願い、植樹式は終了した。



ヒースモント・イースト小学校の児童と

### ビクトリア州総督表敬訪問

平松市長、多賀谷市会議長が大阪市、大阪市会をそれぞれ代表し、ビクトリア州のデ・クレツター一総督を表敬訪問した。

姉妹都市提携30周年記念式典や記念植樹式が滞りなく執り行われたことをデ・クレツター一総督に報告するとともに、今後ともメルボルン市とは経済、文化、観光、教育など様々な分野において交流を深めていきたい旨、挨拶した。

### 移民博物館視察

この移民博物館は、開拓時代から現代まで、オーストラリアの移民とその固有の文化を紹介する博物館であり、移民によって広められた文化に関する展示物などを見ることができる。

5月15日から9月14日まで、大阪とメルボルンとの姉妹都市提携30周年を記念し、「kimono:Osaka's Golden Age」が開催されており、約130点の江戸から明治時代の着物類が展示されていた。

この催しのためメルボルンに派遣されている大阪歴史博物館の学芸員である中野氏により、両替商の鴻池家から寄贈された着物や当時の火消しの服などの衣服を通し

て、当時の大阪の人たちの暮らしぶりがどのようなものであったかについて丁寧に説明をしていただいた。

多くのメルボルンの方々にご来館いただき、この展示を通じて日本や大阪について少しでも興味をもっていただくことが、市民レベルから両市の文化交流が深まるのではないかと期待する。

今回、日本ではなく、オーストラリア・メルボルンにおいて日本の着物について学ぶ機会を得たことは、日本・大阪の文化について外から改めて見つめなおすことができる貴重な体験であった。

### メルボルン市役所主催 30 周年記念歓迎レセプション

移民博物館の視察終了後、博物館 1 階のホールにおいてメルボルン市役所主催によるレセプションが行われた。

壇上では、尺八やギターによる演奏が行われており、オリエンタルな雰囲気の中、カール・ジェッター市議会議員の司会により歓迎レセプションは始まった。

まず、ソーマ市長より歓迎のご挨拶をいただき、続いて、平松市長、多賀谷市会議長から挨拶を行った。

#### 【ソーマ市長挨拶要旨】

メルボルンと大阪の姉妹都市関係は、経済面では B P C ネットワーク、教育面では生涯の友情を育む交流事業、スポーツではサッカー・メルボルン・大阪ダブルハンドヨットレースなどいろんな面で市や社会に貢献している。

30 周年記念宣言の署名を通じて、我々の都市は新たな時代に入ると思っている。

メルボルン市は、日豪関係全体の中でも最も重要な提携と思っている大阪市との姉妹都市提携を、今後とも発展させたいと考えている。

#### 【平松市長挨拶要旨】

大阪市とメルボルン市が姉妹都市という固い絆で結ばれ 30 年の月日が流れた。本日は姉妹都市提携 30 周年を記念し、メルボルン市庁舎で記念宣言に調印させていただき、今後のさらなる交流に向けて思いを新たにしたところである。

また、長寿のシンボルである長寿松を植樹し、先月、大阪で植樹したイチョウとともに、両市の友好関係が末永く続していくことを改めて確信した。

現在、ここ移民博物館では、大阪歴史博物館の所蔵品である着物が展示されているが、昨年 12 月の就任以来、大阪歴史博物館をじっくり視察する暇がなく、メルボルンでその所蔵品を見る機会に恵まれた。これも両市の友好関係があったからこそであ

り、この友好関係がなければ私が大阪歴史博物館の所蔵品を見る機会はずっと先になっていたかもしれない。

ぜひ市役所同士、議会同士だけでなく、市民レベルでも交流を深めていきたい。

### 【多賀谷市会議長挨拶要旨】

先ほど市長の挨拶のなかでもあったが、私自身もメルボルンを訪れるのは初めてである。

先ほど移民博物館で開催されている大阪の着物展を視察させていただき、議員になって十数年になるが大阪の着物について初めて学んだ。

大阪に帰ったらメルボルンの方々のあたたかい歓迎ぶりを大阪市民や大阪市会議員に伝えたい。

レセプションには、ソーメー市長をはじめ、長谷川在メルボルン日本国総領事、在メルボルンの日本企業の代表者など総勢 150 名以上が大阪とメルボルンの姉妹都市提携 30 周年を祝うために集い、積極的にメルボルンと大阪との様々な立場・レベルにおける情報交換が行われた。



レセプションにおいて活発に情報交換が行われた